

施策体系

基本方針	3	教育の健幸	施策名	10	生涯学習の推進
------	---	-------	-----	----	---------

施策統括部	教育部	関係課	無し
施策主管課	生涯学習課		

1 施策の評価指標

成果指標		単位
A	市民講座登録者数	人
B	「多文化交流」関連講座の開催数	回
C	本の貸出者数	人
D		

2 指標等の推移

成果指標	R4年度実績値	数値区分	6年度	7年度	8年度	9年度	評価	背景として考えられること	
A	人	280	目標値	330	360	390	420	○	新型コロナウイルス感染症の影響で一時的に活動が制限されていたものの、感染状況の落ち着きに伴い、外出や交流を求める高齢者のニーズが高まりました。また、市政情報モニターやSNSによる情報発信を強化したことにより、登録者数が増加しました。
			実績値	399					
B	回	6	目標値	12	15	18	20	○	JASM進出や介護・建設・農業などを中心とした外国人労働者の受け入れが進んでおり、地域での多文化共生を進めるためには、住民同士の多文化理解を深めることが重要であり、また住民からの多文化理解に対するニーズが高まっています。
			実績値	46					
C	人	79,761	目標値	80,000	80,750	81,250	82,000	△	コロナ以降、来館者は戻ってきている中、きくち圏域電子図書館が令和6年7月より開始され、利用者の利便性が向上した。電子図書館の運用により来館しての貸出者数は若干減少していることが考えられます。電子図書館の貸出数は1,540冊（市内登録者）、全体の貸出数は18,999冊（市外登録者を含む）であり、読み放題コンテンツ（雑誌等）の利用者は実数不明であるが利用は多い。
			実績値	77,487					
D			目標値						
			実績値						

※【評価】 ○；目標達成 △；目標をほぼ達成（-5%） ×；目標を未達成

事務事業数・コスト		6年度	7年度	8年度	9年度	
事務事業数		本数	11			
事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	1,183		
		都道府県支出金	千円	0		
		地方債	千円	143,300		
		繰入金	千円	661		
		その他	千円	30,887		
		一般財源	千円	380,630		
事業費計		千円	556,661			

3 施策の現状・住民意見等

①施策の現状(第1期基本計画策定当初)と今後の状況変化

- 住民のニーズに即した学習機会を提供しています。
- 各施設の老朽化に伴い計画的に改修を進めています。
- 施設更新経費や維持管理経費が増加しています。
- 地域コミュニティの互助・共助の機能が低下しています。
- 学校と地域の連携・協働の重要性が求められています。
- 地域での多文化共生を進めることが求められています。
- 生涯学習施設のオンライン予約システム導入を進めています。

②この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?

(令和6年度(令和5年度振り返り)の施策評価における議会意見)

- 多文化共生における生涯学習の在り方を検討すること。
- 他自治体や先進地研修に努め、時代に合った講座の開拓に努めること。
- 地区公民館活動の活性化に向けて、地区リーダーの育成に努めること。
- 公民館長会議等を利用して、地域活動の情報交換及び交流等を図ること。

(令和6年度(令和5年度振り返り)の施策評価における総合政策審議会意見)

- 健幸都市こうしとして、健康に関する講座の充実を図ること。
- 生涯学習講座は、初心者向け・高齢者向け・こども向けなど、市民が参加しやすい内容になるよう工夫すること。
- 市民が講座に参加しやすい環境整備を行うこと。

4 施策の評価

①施策の振り返り(経営方針の達成度等)

令和6年度経営方針からの振り返りは以下のとおりです。

- ①【多文化共生社会のニーズに合ったイベントや生涯学習講座の充実を図るとともに周知の強化に努めます。】については、「外国人のための日本語講座」を開催し外国人の日本文化への理解を深めるとともに、「英会話教室」「多国籍料理教室」など住民が外国に対する理解を深める機会を提供しました。また、ホームページやFacebookを活用し、広く情報を周知しました。
- ②【利用しやすい安全安心な社会教育施設の環境整備に努めます。】については、ヴィーブルや市民センター等の各設備等の保守点検業務委託を行ったほか、ヴィーブルのキュービクル改修工事設計や栄市民センター空調機・照明設備の改修工事を行い、利用者の安心・快適な提供に努めました。
- ③【学校や地域コミュニティと連携し、学習機会の充実を図ります。】については、地域と学校がパートナーとなり、学校を核として地域全体で子供たちの成長を支える「地域学校協働活動」を推進し、小中学校に1名ずつ地域学校協働活動推進員を配置するとともに、実践発表会や講演会を開催しました。
- ④【地区公民館活動の活性化を図るとともにコミュニティセンターを中心とした自主事業や活動、また、主催講座の情報発信を支援しながら市民の交流、健康維持に努めます。】については、自治公民館の活発な活動を支援するため、地区公民館活動等助成金、地区公民館建設補助金、地区公民館備品購入補助金を交付しました。また、6つのコミュニティに活動補助金を交付するとともに、コミュニティ指導員を配置し、学習発表会を開催するなど市民センターを核とした生涯学習活動を推進しました。

②施策の課題（令和6年度の施策の振り返りから見る課題）

- これまで学習に参加できない人の掘り起こしや、多文化共生など、多様なニーズに対応した学習機会の充実が必要です。
- 各施設の計画的な維持管理や更新が必要です。
- 地域のコミュニティ活動の活性化が必要です。

5 施策の令和6年度結果に対する審査結果

①政策推進本部での指摘事項（施策目標達成度評価結果報告を受けて令和7年7月23日）

- 多様化する時代のニーズに対応したイベントや講座のより一層の充実を図ること。
- 各施設の老朽化に伴う安全性や品質を保つために、計画的な維持補修や更新に努めること。
- オンライン申請の導入など社会教育施設の環境整備を行い、市民の利便性向上に努めること。
- 図書館及びマンガミュージアムについて、指定管理者と連携を深め、活性化を図ること。

②総合政策審議会での指摘事項（令和7年7月31日、8月6日のまとめ）

- より多くの市民に参加してもらえるようにイベントや講座の周知方法を工夫すること。
- イベントや講座等の内容の充実を図ること。

③議会の行政評価における指摘事項（令和7年9月1日）

- 多文化共生や中高生の居場所づくりなど、様々な視点から生涯学習講座の展開を図ること。
- 図書館及び図書のためのさらなるデジタル化の推進に取り組むこと。
- 全世代に対しサブカルチャーに触れ合う機会を充実させること。

6 次年度に向けた取り組み方針

○政策推進本部 令和8年度合志市経営方針（令和7年10月10日）

- ①多文化共生など市民のニーズに合った多種多様な講座等の開催に努め、多くの市民に参加してもらえるよう周知を図ります。
- ②社会教育施設の利用申請手続き及び施設の老朽化等について、市民の利便性を損なわないように計画的な整備に努めます。
- ③図書館及びマンガミュージアムの更なる利用促進に向け、指定管理者との連携を強化し、全世代を対象としたイベントの開催や「きくち圏域電子図書館」の更なる充実を図ります。